



## 黄色い帽子をプレゼント

志布志港湾振興協議会が、市内の小学校新1年生の交通安全を願い、黄色い帽子を贈りました。

4月6日、安楽小学校の入学式において、志布志港湾振興協議会が新1年生に黄色い帽子を贈りました。志布志港湾振興協議会では、毎年、地域交流事業の一環として、市内各小学校の新入児童の交通安全を祈願して、黄色い帽子をプレゼントしています。



## サッカー仲間が志布志に集結

SHIBUSHI FOOTBALL FESTIVAL がしおかせ公園などで開催され、全国から29チームが参加しました。

3月27日から4月1日まで開催された同大会に、遠くは北海道からクラブチームや中学、高校のサッカー一部員など約450名が参加しました。

7回目の開催となる同大会は、全国各地のチームと対戦する機会を提供し、競技面の成長のみならず、選手たちの視野を広げることを目的に開催しています。

## ㈱セビアと立地協定を締結

市と㈱セビア（北九州市）が、県の立会いのもと農産物加工工場の立地協定を締結しました。

4月11日、市役所本庁において調印式が行われました。同社は、当面、志布志町安楽でさつまいもペーストや焼き芋の製造販売を行う予定です。これにより雇用が創出され、また将来的には志布志港を利用した輸出も計画されていることから、志布志港の利用促進、地域経済の発展が期待されます。



## 子ども食堂は春休みも大盛況

学校給食のない春休みの金曜日に、おいしいカレーを安価で提供する子ども食堂が開かれました。

3月24日と31日、ふるさと大使の田浦天志さんの呼びかけで集まったボランティアの皆さんが、志布志町の井や和華において子ども食堂を開店しました。子ども食堂には、食材や飲み物の提供もあり、合計約140人がカレーなどを楽しみました。子ども食堂は今年の夏休みも開店する予定です。



## 防犯用ホイッスルをプレゼント

九州労働金庫志布志支店から市内の小学校新1年生309人に防犯用ホイッスルが贈られました。

4月10日、通山小学校で贈呈式が行われ、新1年生30人の代表がホイッスルを受け取りました。未来を担う子どもたちをろうきん全体で支援したいという思いで取り組まれるこの活動は、今年で6回目となります。ホイッスルは、志布志市のほか曾於市、大崎町の新1年生にも贈られました。



## ふるさとを明るく、住みよく

てのもんそ会員、泰野地区の住民など40人が、約10,000球の彼岸花を植えました。

3月26日、松山町で活動する水土里サークルてのもんそ会（本村次安会長）の皆さんが、農村景観活動の一環として泰野川沿いや田んぼ周辺などに彼岸花の植栽を行いました。

参加者は「ここ一帯に彼岸花が咲くのが楽しみです」と話してくれました。

## 志布志線・大隅線の歴史を学習

市埋蔵文化財センター企画展「よみがえる志布志線大隅線の歴史」の入館者数1000人達成セレモニーが行われました。

4月11日、志布志保育園の年長組17名が見学を訪れ、同展の1000人を達成し、記念に列車のぬいぐるみが贈られました。普段公園で見ている機関車の在りし日の勇士を、写真や動画で見た園児からは「いつも見ている機関車の昔の姿を見られて楽しかった」と感想が聞かれました。



## バルク港の整備に向け大きく前進

志布志港国際バルク戦略港湾の整備事業化決定を祝して祝賀式典を行いました。

4月3日、市役所本庁において「志布志港国際バルク戦略港湾整備事業化決定」祝賀式典を行いました。穀物バルク船の大型化に対応した施設が早期に整備されることで、南九州地域のみならず、日本全体の畜産業の産業競争力の強化に大きく貢献することが期待されます。





## 志布志高校が挨拶日本一宣言！

校内外や家庭で元気よく日本一のあいさつすることで、地域を明るく、活性化することを誓いました。

4月24日のしぶしの日に、全校生徒が参加して宣言式が行われました。生徒を代表して生徒会長の竹之下夏希さん（3年）が宣言文を読み上げ、決意表明しました。竹之下さんは「あいさつで学校や地域を盛り上げ、志布志高校に入学する人を増やしたい」と今後の活動に意欲を見せました。

## 平和について学習しました

有明中学校の2年生が、長崎への修学旅行の前に、戦争の体験談を聞き、平和について学習しました。

5月2日、同中学校図書室において、戦争体験を語り継ぐ活動をしている淑女会の皆さんが、戦争の悲惨な状況や当時の生活を紙芝居などを使ってわかりやすく話しました。平和の大切さを学習した生徒は「これからは私たちが戦争を止めるという意思を持っていきます」と話しました。



## 土地家屋調査士が災害時に支援

災害時における住家被害認定調査等の支援に関する協定を締結しました。

4月14日、市役所本庁において鹿児島県土地家屋調査士会、公益社団法人鹿児島県公共嘱託登記土地家屋調査士協会、市による協定調印式が行われました。今回の協定により、災害時の住家被害認定調査に土地家屋調査士が協力します。また、建物損壊、土地境界標の滅失等に係る登記や境界に関する相談窓口の開設、市公有財産の施設に関する筆界点情報の収集及び復元なども行います。これにより、応急復旧等の迅速化が図られ、災害時における住家被害等に関する相談体制が確保され、市民の迅速かつ円滑な生活再建につながることを期待されます。

また、鹿児島県土地家屋調査士会から土地家屋調査士が日頃の業務で使用する土地の境界標識（金属釘）などを小学生の目線で観察し作成された絵本「じめんのボタンのナゾ」が市内の小中学校の図書館に贈られました。



## 新1年生の安全のために

志布志地区金融機関防犯協議会から新入学児童に対して防犯ブチタオルが寄贈されました。

4月19日、同会の内野朋昭会長が教育長室を訪れ、市内の小学校新1年生309人に、犯罪に巻き込まれないための約束事がデザインされた防犯ブチタオルを寄贈しました。同会では、子どもたちが安全な学校生活を送れるよう平成25年から防犯教材を寄贈しています。



4月に行われた5歳児歯科検診で、むし歯も処置歯も無かった子どもたちです！21ページにも掲載しています。ご覧ください



ひな 陽菜 ちゃん



まい 絆生 ちゃん



ゆりお 友梨音 ちゃん



ゆめが 夢姫 ちゃん



かずは 一葉 ちゃん



りょうま 綾真 ちゃん



みなと 湊斗 ちゃん



ゆうと 優斗 ちゃん



おうしろう 旺志郎 ちゃん



りゅうしろう 龍司郎 ちゃん



こはる 心晴 ちゃん

## 米づくりを1から学びます

米がどのように作られるかを学習するため、有明小学校の5年生が総合学習の時間に田植えを体験しました。

4月21日、同小学校近くの地域の方が準備した体験用の田んぼで田植えが行われました。地域の方の指導の元、児童と先生、保護者も一緒に稲の苗を手で植えました。初めて田植えをしたという児童は「田んぼの泥がヌメヌメしていて、まっすぐ植えるのは難しかった」と感想を話しました。

